

- 代表者名 小澤 幸良
- 設立年月日 1968年(昭和43年) 9月1日
- 所在地 〒400-0027 山梨県甲府市富士見2-8-19
- TEL 055-251-2948
- FAX 055-251-1177
- E-Mail tatami@ozawatatami.com
- URL https://ozawatatami.com
- 業 種 製造業
- 従業員数 2人

インタビュー



小澤 一幸

テーマ

最新框縫機と両用機の導入による納期短縮とブランド力強化

最新の框縫機と両用機の導入により、畳製造の作業効率の大幅な向上を実現し、主力事業である畳表替え6畳間の製作時間が3時間半から2時間弱まで短縮することができた。またこれまでニーズは増加していたが自社での対応が難しかった厚さ15mmの薄畳の製作も可能になり、よりお客様ニーズに応えられるようになった。



導入した框縫機

機を導入することにした。

同社が所有する既存設備には框裁断機付框縫い機、ヘリを縫い付ける平刺し専用機、畳ヘリを畳床に縫い付ける返し縫い専用機があるが、それぞれの部分しか縫うことができない専用機のため、各設備に常に人が付いて作業しなくてはならず、作業内容にもよるが1畳あたり40～100分を要していた。

新たに導入した框裁断機付框縫い機は、畳床を機械に装着されている寸法定規に合わせてボタンを押すだけで、框を自動切断して縫うことができる。また平刺しと返し縫いが一度にできる両用機は、畳を定規に合わせて固定すると、平刺し縫い作業と返し縫い作業を一連の流れで自動で行うことができる。

これにより、今まで1畳当りの製作に40～100分かかっていたが、24～50分まで短縮することができた。6畳間の作業時間も平均1時間半の短縮が可能になり、お客様の待たせる時間を減らすことができた。

さらにこれまで対応が難しかった厚さ15mmの薄畳の製作も可能となり、よりお客様のニーズに対応した事業展開が可能になった。



平刺し縫いと返し縫いができる両用機

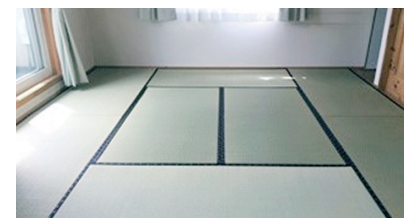
住環境の変化などにより近年、新築住宅の畳の需要は減っているが、それ以上に畳店が減少している。小澤畳工業所がある甲府周辺には現在、畳店が30軒ほどあるが、そのうち20軒ほどは店主が60歳以上となり、後継者不足などから10年後に廃業してしまう可能性が高く、残る畳店は10軒ほどになる。

県外の格安業者の参入もあるが、畳の表替え裏返し工事はお客様の家の中まで入るため、信頼性によるところも大きく、地元で50年にわたり畳店を営んでいる同社への注文は増えている。

畳は部屋ごとに採寸して製作する受注生産のため、注文が集中する時には施工、納品までに最長1カ月半程度お客様を待たせてしまうこともあり、生産性の向上による納期短縮が課題だった。

また近年の新築住宅はバリアフリー設計となっているため、通常の畳の厚さ60mmよりも極端に薄い15mmのバリアフリー対応の薄畳が増加傾向にある。またフローリングに置くタイプの畳の問い合わせも増えているが、同社が所有している設備では薄畳を縫うことができない。そこで最新の框縫機と両用

安心、安全で良質な畳を届けたいから原料から製法までこだわる



施工した畳の部屋

「うちの畳は98%以上が国産い草を使っています。熊本県のい草生産農家と契約していて、安心、安全で良質な草を届けてもらっています」と自信にあふれた表情で話すのは小澤一幸さん。小澤畳工業所の2代目だ。

畳表の原料であるい草がどこで作られているのか、これまで考える機会がなかったが、小澤さんから話を聞いて驚いた。世の中に出回っている畳のうち、約80%は中国産が使われていて、残り20%が国産だが、そのうち天然い草を使っているものは15%だけで、5%は和紙やビニールなどを加工したものを使っているという。

さらにい草農家は年々減少していて、18年ほど前までは全国で2180軒、熊本には1800軒ほどあったが、現在は約350軒まで減っていて、後継者不足などにより今年だけでもさらに40軒の減少が見込まれているという。

同社ではそんな貴重な国産い草にこだわり続けている。しかも契約農家が残留農薬検査を行っていて、その証明書を付けている。「お客様に安心して使ってもらい、喜んでもらえることが何よりで

す。良質な草を使った畳表は、本当に長持ちするんですよ」と小澤さんは胸を張る。

毎年、刈り取り時期には熊本まで出向いて作業を手伝い、農家とのコミュニケーションも大事にしている。それも、より良い畳をお客様に届けたいという思いからだ。

同店では原料だけでなく、畳を作る作業においても安全にこだわる。ヘリのない畳を作る時、い草を折って縫う作業があるが、多くの畳店では薬品を使ってい草を柔らかくしてから折る。しかし同社は水でい草を濡らすだけで、薬品は一切使っていない。「畳は赤ちゃんが寝転んで舐めることもありますからね、やっぱり安心して使ってもらいたいですよ」。

そんなお客様に寄り添った仕事をしている同社には、長くお付き合いしているお客様が多い。「畳屋はお客様の家の中に入っている仕事なので、信用も大事です。お客様の立場に立った丁寧な仕事、信頼につながっています」と小澤さんは笑顔を見せる。



先代とその奥様も現役で仕事をしている

良い畳を作ることが、畳のある和室の存続につながっていく

近年は和室のない家も増え、畳そのものの需要は減少傾向にあるが、「だからこそ良いものを提供したいんです。畳を使っていると感じてもらえれば、畳の和室は残っていきますから。お客様の満足度を上げることが、畳が存続していくことにつながっていくと思うんです」と小澤さんは力説する。

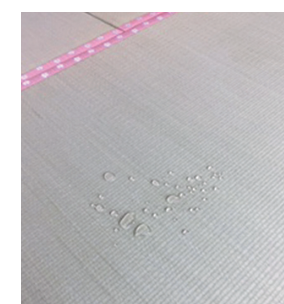


技能検定を取得している小澤さん、手作業も見事

今回の新設備導入も、顧客満足度をアップするための取り組みだ。生産能力を向上させて作業時間の短縮化を図ることで、複数の部屋でも朝に畳を預かり、その日の夕方にお届けすることも可能になった。また畳の状態によっては藁を足して縫うなどの手作業での補修を必要とすることもあるが、そこにより多く時間を割くことが可能になった。

また同社では手頃なものから上質なものまで常に15種類の畳を揃え、お客様のニーズに対応できるようにしている。薄畳もこれまではバリエーションが少なかったが、契約しているい草農家と相談して、数年前から薄畳でも上質なタイプを開発し

人気を得ている。さらに子どもがいる家庭や飲食店などからの「畳は飲み物や食べ物をこぼしたりして汚れるのが心配」という声に応じて、契約農家が開発した撥水加工が施された高機能畳も展開。最近では室内でペットを飼う家も増えていて、需要が高まっている。



撥水加工を施した畳は水分を吸い込まないの汚れにくく安心

「効率化も大事ですが、何百年も前から続いている畳という文化を大切にしていきたいですね。そのためにもこれからもお客様の立場に立った商売、お客様に満足していただける仕事をしていきたいと思っています」。

穏やかに語る小澤さんだが、その言葉には畳づくりへの熱い思い、お客様へのあたたかい気持ちがあふれていた。



小澤畳工業所の店兼作業所



H29年度

畳の製造、販売